

サイエンススピリチュアル マスター講座

旭 太郎



株式会社鳳凰社 代表取締役
旭 太郎 Taro Asahi

昭和49年10月3日生まれ 東京都中央区出身
現在 信州は上田市に在住
平成11年10月 株式会社鳳凰社 設立

<現在の活動など>
人生コンサルタントと銘打った自身の直感、
いわゆるスキャンと呼ぶ独自の感性にて個人法人の
様々な問題へ助言指針を示すべくカウンセリングを
主軸に20年以上、3万人を超える方々の
スキャンアドバイスに従事。

又、信州・東京を中心にカウンセリングと整体施術の二本柱にて「健康を楽しむ」を
日々皆様へ伝えるべく活動に努めている。

<出版・メディア>
ぶんか社／単行本3冊 及び 月刊漫画（本当にあった怖い話）連載
カルナ社／作家 佐藤綾子氏との対談 及び 単行本二冊
エルアウラ社／癒しフェア 及び 月刊誌トリニティ 及び スマートフォン用アプリ

ScienSpiritual

サイエンススピリチュアルマスター講座
オンラインスクール

第一章

スピリチュアルと科学の融合
「サイエンススピリチュアル」とは

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

私が提唱する、サイエンススピリチュアル…
それは“科学と神秘の融合”と言う私が約
40年以上 スキャンと共に、そして 3万人以上の
カウンセリングを通じ、言うなれば、
<人生と臨床> から歩み得た『人が幸せを
掴む為には・人生を豊かに致す為には』の
旭太郎としての答えであると、そう自負して
おり、更に その真意を深掘りして行くと

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

現実世界と霊的世界が交わる所に人が
人として生きやすく、そして幸せになる為の
必須条件であり、又それがStep①と言っても
過言ではないと感じておる心の豊かさを
自然と得られる『生き方』が存在していると、
私は強く感じております。その信念と哲学に
基づいて“サイエンススピリチュアルとは”を
先ず、レクチャーさせて頂くにあたり

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

私と言う人間が存在する根源とも言える、
私の家系のお話から現在までに至り
経過して来た『現実と霊的』なお話を
語らせて頂く事は、必要不可欠と強く感じ
弥弥初出（びびしょしゅつ／その時期が来たと感じ初めて語る）
となる お話し致したいと思います。
私の家系は元々、甲州に身を置いており、
西暦1500年代には武田信玄公の家臣として

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

仕えており、私の家系における家紋は
武田菱を代々相続しており、更には
四畳分ほどの大きな『龍神』の絵画も
代々相続する家系に御座います。私は現在、
それらを相続した末裔となり、
私のスキャンのルーツは、そこにとても関係
して参るのではと私はそう感じております。
何故ならば歴史をよく知る方であれば、

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

ご存じの事と思いますが、武田信玄公は
清和源氏（せいわけんじ）の血を引き、
スピリチュアルを、とても重要視され
神道・仏教、双方の学びを大切にし、
サイエンスでは信玄堤を開発した
治水事業のプロフェッショナルでもあります。
その信玄公の教えを学んで参った家系の
一つが、私の家系である事を亡き祖父より

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

よく聞かされたものです。そして、これは私の
憶測では御座いますが、私の家系に代々伝わる
龍神はもしやすると、信玄公より授かった
ものでは…？と夢を持ってもバチは
当たらずとそう感じており、何故ならば
武田信玄公の朱印は、龍をモチーフにした
朱印に御座います。私は強く感じます、私は
幼き頃より、祖父から「社会で生き抜く為に

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

必要な事は“経験力と発想力”であり、その
二つが相俟って人間力となり、
その力が高い人間は自分を助けてくれる
人・環境・チャンスと言う奇跡を得られ
それを幸せと言うんだぞ」と幼少の頃より
ずっとそう教えられて参りました。旭太郎と
なった今、それをスキャンし言語化すれば
経験力を体得できる究極の場所は＜現実世界＞

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

発想力を体得できる究極の場所は＜霊的世界＞
その二つをバランスよく学び・磨いて
行く事で、どんなカテゴリやシーンであっても
どんな困難や苦難と言う障壁が目の前に
立ちは大変なとしても、必ずや奇跡が起き
好転でき、幸せが舞い降りて参る事を
私は知っております。また私が知りうる限りの

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

範囲かも知れませんが、私のもとを訪れて
くださった3万人以上のご相談者様の中で
私の創作語にて、成功と言う漢字の「成」の字
幸せと言う漢字の「幸（こう）」の字を
足し算した“成幸者”は、必ず霊的世界と
現実世界の両方を融合させた私のスキャンで
降りて参ったサイエンススピリチュアル的
歩み方・生き方を真摯に受け止め実践され、

次第に長い年月を掛けて気付いた時には、驚くほど霊的世界の力、いわゆるスキャンが
開眼されており、そしてその力を自然と
現実世界に活用できておられます。私が
スキャンにて強く感ずる事は、現実世界と
霊的世界は表裏一体であり、その二つを
バランスよく底上げし、磨いて行く事が
最も重要である事を強く感じております。

しかし、本来ならば、長い年月を積み重ねて
開眼・体得して参ったり、または、霊的世界に
目をやらず、終わりを迎える方々も多く
おられるのではと言う事も強く感じており、
決してそれが悪い事ではないのですが、
“人生を謳歌する”と言う言葉がある通り、
霊的世界に目を向けたり、それを現実世界に
活用したりと言う事も人生謳歌の一つと

強く感じ、信念を持っております。そこで私が
スキャンにて「今その時が参った」と感じた
その時とは、レクチャーさせて頂く
この講座こそが
それにあたります。

サイエンススピリチュアル
とは、その様な深き意味・趣旨における、
科学と神秘の融合、現実世界と霊的世界の
融合、日常生活の中に発想の力
いわゆる、スキャンと言う名の直感力を

開眼・活性させ取り込むだけで、奇跡の
現実が皆様の目の前に現れる事を
感じており、それを起動する為の方法・手段が
サイエンススピリチュアルにはあると
言う事を強く申し上げたく次第に御座います。
現実世界に霊的世界を活用する、霊的世界を
現実世界で分析する、幼少の頃から現在に
至って、その様な経過を歩んで参ったからこそ

人間 誰にも備わるスキャンと言う名の
直感能力を誰でも開眼・活性する事ができ、
それを日常に人生に誰でも活用できる方法が
開発でき、そしてそれを楽しく学べて
身に付けるべく、この様に講座を開かせて
頂き、皆様にレクチャーさせて頂けるのだと
重ねてそう強く感じ、自負致しております。
現実世界に霊的世界を活用する、

霊的世界を現実世界で分析するとは、を
具体的にお話しさせていただきますと、
それはやはり、私が幼少から現在に至り
見舞われた摩訶不思議な現象や事象、
そして、私がその摩訶不思議なものに対して
いわば、実験して来たお話を語らせて
頂くのが、最も相応しいと感じ、
ここからは少々おどろおどろしい、そして

恐々した、更に…怪しいと（笑）思われるやも
知れぬ私のお話しにお付き合い下さい。私は、
この世に生まれてから現在に至るまでに、多くの
様々な霊的事象を体験して参り、その一番
最初となる事象は、私がまだ小学生、低学年の時
でした。この頃、実は毎晩ある夢に襲われ、
一けた台の年齢でありながら不眠症となり、
その夢の内容とは…決まって必ず前半と

後半に分かれており、先ず前半の夢とは、
首の無い白い着物をまとった人間らしき
集団に追い掛けられると言う夢でした。
そして突然、シーンは変わり、後半の夢は
火災に見舞われた工場らしき建物から
火だるまになった女性達数十名に
追い掛けられると言う夢でした。
ただ、私は幼いながらもこの夢の内容や

この夢のせいで寝れないと言う事を
言ったら、頭がおかしいのでは…と思われ、
家族に言う事はしなかったと言うよりも
言えなかったと言うのが、実際だったと
記憶しております。しかし、その夢は
毎晩つづき、頭がおかしいと思われたくない
と思っていたものの、連日に渡る悪夢からの
睡眠不足により、身体は限界を迎えてしまい、

本当に頭がおかしくなり始め、自分の心身に
危機を感じたあの時の事を今でも鮮明に
記憶しております。実はこの時、私の異変に
家族達も気付いており、父母は学校で何か
あったのでは…と錯覚していたそうです。
しかし、私を一番に可愛がってくれた、
同居していた父方の祖父は
「根拠は無いが太郎にしか分からぬ何かに

彼は侵されているのでは…」と
他の家族にそう話していたそうで、
更に時を同じくして、母方の祖父は
「最近毎晩、太郎が苦しんでいる夢を
見るのだが何かあったかい？」と母に
連絡があったそうです。今思う事は、
父方、母方、双方の祖父達ふたり
スキャンが開眼・活性していたのでは…と

私はそう強く感じてなりません。また両祖父ともに共通している事は、太平洋戦争時、父方の祖父は元 海軍飛行予科練習生の特攻隊であり、出陣が終戦の日であった為、奇跡的に助かった一人であり、母方の祖父は元 近衛兵であり、終戦時、詳細は申し上げる事は出来ませんが、軍部によるある責任を取るべく自害を決断したものの、部下達に

助けられ、命を繋ぐ事が出来た経緯があり両祖父共に“九死に一生を得た”経験の持ち主でした。そんな二人の祖父が同時期に、しかも一人は『直感的』に、一人は『夢で』と言うとても摩訶不思議な経過をへて、孫の私を心配する話を私の父母に言って参り、それを受けた父母は私に率直に聞いてみようと考えてくれ、私に「何かあったのか？」

もしそうだとしたら話してごらん」と私が思い切って話せる切っ掛けを作ってくれ、私は夢の話をそれこそ夢中で話した事、今でも鮮明に覚えております。そして、その結果、実は私が生まれ育った家の土地は江戸時代には罪人処刑場であったり、昭和時代には繭の製糸工場であり、B29の焼夷弾爆撃により、

47名の女工さんの尊い命が奪われた歴史が御座いました。その事実は、祖父母達も知らず、私の夢によって公的機関の記録から発覚した事実に御座いました。また、私の両祖父は神や仏とは何かの儀式と言うマニュアルによって鎮魂されるものではなく、「現代に生きる我々人間の意識と生様が供養となり、安鎮される

ものなり」と言う強い信念を持つ、私の固定観念かも知れませんが、命を懸けてこの日本国を守った人達らしい信念だなと幼い時ながらも感じ、そして学ばせて頂いたと両祖父には旭太郎となった今だからこそ、更にそう強く感じる事ができ、感謝の想いで一杯に御座います。その後、私は祖父から助言された「この場所で過去起きていた

事々を太郎なりにイメージし、仮に太郎がその方々だったら自分の命が消えてしまうその瞬間どう思うのか考え、そして、自分の命が消されてしまったその後、カラダは消えども意識は今と同じ意識でいられるとしたらどう思い考えるのかイメージしてみなさい」と小学校 低学年の私には、あまりにも難しい課題を両祖父から

出され、しかし私の家系は、時代錯誤も甚だしい程、厳しい家系にて何事も先ずはやらずして分からぬ・出来ぬ等と言い逃げたものならば、徹底して厳しい教育的指導がなされられる家系でしたので両祖父に言われた課題を、先ずは実践すると言う選択を致すのは良くも悪くも当たり前であった為、何の疑いも無く私は

「よし、先ずはやってみよう」と困難の極みではありましたが、もうあの怖ろしき夢に襲われたくないと言う必死の思いと、努力をしなかった時の両祖父からの夢と同等な恐さを味わいたくない（笑）と言う必死の思い（笑）とが相俟い、即実践に移した事をよく記憶しております。その結果、私は、

仮に、自分が江戸時代に生きていた人間で罪人として、罰を受けるべく、刻一刻と人生の終わりが近づいているとしたら…仮に自分がいつもと同じ毎日を過ごしており、しかし突然、人生の終わりを迎えさせられたら…と小学校 低学年の幼き私ながら物理的な苦痛などに視点が行かず、むしろ終始“生死と心理”に自然と

視点が行ってしまい、正直に言えば、それ以外イメージ出来なかったと言うのが実際です。また仮に自分がカラダは消滅しても、ココロだけが今と同じ意識で残存できるとしたならば、そんな自分を現在生きている人が気付いてくれてあわれむ言葉を掛けてくれたら、どれだけ嬉しい事か…と、やはり自然とそうイメージする幼き私がそこに

おりました。そして私は更に自然と誰に言われた訳でも無ければ、正直自分の意思で行なった訳でも無く、自分じゃない自分が勝手にある言動を行っていた…と言うのが正直な表現で、私は毎日一日一回家の庭に出て心の中で「ゆっくり安心して
お休み下さい」と繰り返し語りながら、隅から隅まで歩くと言う行動をとっておりました。

その後、いつの時からかは覚えてませんがあの恐い夢を見る事は一切なくなりました。がしかし、その続きがあるんです。その後夢は見なくなったものの、今度はまともに目で見てしまうと言う事象に襲われました。ただ、今と同じくひねくれた性質を持つ幼き旭太郎は「これって…テレビでやってる心霊ってやつだよな…夢の時は怖かったのに

なんで目の当たりにすると、全然怖くないんだろ…もしかしたらずっと、お庭でお祈りしてたから心が通じ合いこの透き通って見える首の無いおじさん達やヤケドしてるおばさん達、優しくなって、僕を襲ってこなく、だから怖くないのかも…」と思いつつ、更に私は「僕にしか見えない人達から色々お話を聞けば、未解決な事が分かり

僕は億万長者になれるかも…」と、ふらちな幼少 旭太郎に御座いました。しかし、私が私にしか見えぬ世に言う霊に話しかけても何も答えないどころか、私の存在に全く気付いてない様子で、私の億万長者への夢は音をなして崩れて行きました（笑）その頃は「なぜ霊は答えないのか？それどころか霊は、こちらの状況は何も分かってない…と言うか

まるでTVの中で演ずる俳優さんみたく、こちらが一方的に見てるだけの様で…」ととても強くそう感じてなりませんでした。話しが脱線する様ですが、私は幼少のその時から現在に至る長い年月をへて机上の空論ではなく、霊と言われるある種、世で言う未確認物体とリアルにライブで数え切れぬ程の言うなれば臨床に臨床を

重ねて分かった事は “霊”とは、その生命体が残したエネルギーのひとつであり、それを我々人間や木・土・石など現在に生き、感受しやすい性質を持ったものがその生命体が残したエネルギーを感じ取り、そのエネルギーの中に含まれる記憶を読み取り、インストールされそれが木や土

石などではない知的生命体である我々人間であれば、インストール後さらに、あたかも目の前にそのエネルギー、いわゆる霊がいるかのごとく、脳が映し出してくれていると私は霊そのものをスキャンにスキャン重ね確信を得ておると断言申し上げても過言ではないと絶対的自信を持った仮説を立てております。その証として、

夢にまで出て来て私を襲ったあの霊の皆さんが、なぜ幼少期の私あたりの子供一人の共感と哀れむ言葉に現れなくなったのでしょうか？私にそれだけの力があつたから？人間の慈悲の心には無限の力が秘められてるから？私には納得できません…当時、冤罪で処刑された方もおられるでしょう…その悔しさの極みたる心

そして突然、無情にも焼夷弾によって
家族に別れも告げられず、苦しみぬいて
亡くなられた方々の心、その悔しさや
苦しみが想像は出来ても実感を得る事の
出来ぬたった一人の未成熟な男の子が
怖い夢を見たくないから行なった、祖父に
助言されたから行なった、そんな程度の
行動で本当に霊と言う生命体がいるならば

祓われるはず御座いません。人が念じ発する
力は驚異的である事を私は知っており、
私を気が狂いそうな程
悩ませていた摩訶不思議な事象は、一切
消滅し、祓う事が出来たのです。ちなみに、
私が この目で見えていた霊の皆さんは、私が
『霊とは生命体ではなく、生きていた時に
発していたエネルギーや死を迎える瞬間に

発したエネルギーが、そのエネルギーを
感受できるものにインストールされ、
記憶されるのでは』と現在の旭太郎なら
そう言語化できますが、当時の幼少期の私が
上手く言葉には出来なかったが、同じ趣旨・
意味となる、もっと言えば現在の旭太郎が
言語化できる為の最初のStep①となる、
幼少 旭太郎が感じた「霊って話せないんだ…」

「霊って本当は生き物じゃないのかも…」
と言う疑いと仮説を持った時、目の前に
現れていた霊の皆さんは、その時から
パタッと現れなくなりました。しかし、
その頃から、また別の夢や霊を頻繁に
見る様になって参ったものの、私は自然と
この夢は何を意味してるのかな？とか、
この霊は生前、どんな生活をし、

どんな最期を迎え、どんな思いだったのかな？
とか、不思議と以前の様な怖さは全く感じず、
むしろ、その分析に不謹慎 極まりないかも
知れませんが、正直 楽しんでいた幼少期
旭太郎がおりました。ちなみに、この時
見ていた夢や霊の分析、結構の高確率で（笑）
当たっていたんです（笑）それは例えば、
夢で私の祖母がテンプラとスイカを食べて、

救急車で運ばれる…と言うシーンを見て、
しかし事前に、そのことを祖母に伝える事は
遠慮からか、はたまたまだ自分に自信が
無かったからなのか、いずれにせよ話せず
数日後の夕食時、その夢の通りとなって
しまったり…また例えば、親類の おば様の
腹部から透き通った子供が顔だけ出して
おる姿を私は目ではっきりと見ており、

それは、まるでカンガルーの親子の様な姿であった事をよく覚えております。

しかし、やはりその事を伝えることは出来なかったのですが、それから数か月後、そのおば様のご妊娠されたとのお話を聞いた時、何故かとても納得できた幼少期旭太郎がそこにいた事もよく覚えております。祖母や伯母の話は、

ほんの一例であり、それこ他に、数え切れぬ程の俗に言う心霊現象と遭遇して来ておりますが、やはり不思議と怖さを感じる事は無かったと同時に、通常ならば「目に見えぬ存在、神や霊っているんだ！」と確信するのですが、私は逆に当時TVなどでやっていた心霊の定義に対して、さらなる

疑問を強く抱いたのが実際でした。心霊の存在は身をもって実感どころか、まともに今もって遭遇しており（笑）ですので、心霊は『いる・ある』と断言させて頂きますが、実はその定義が旭太郎の場合違うのでは…とそう自負致しております。更に当時、私はある事に興味深く疑問を持ちました。それは丁度、お彼岸の時であったと、記憶

しております。母代寺へ家族や親類達とお墓参りへ行き、その時いつもの事ながら、当家のお墓は勿論、他のお墓にも透き通った見知らぬ老若男女が見えたり消えたり、これは当時、もう私にとっては当たり前の事象となっており、それよりもお墓参り後、父や母、祖父や祖母、叔父や叔母の頭部背後にやはり見知らぬ透き通った老若男女が見え、

その見知らぬ方々は、きっと我々のご先祖なんだろうな…と言う事を何の根拠も無く感覚的にそう感じ、理解していた事を今でもよく覚えております。また家族や親類達の会話の中で「天国にいる皆この彼岸の時期、帰って来てくれるんだよね」と話してた事もよく覚えており、その時私は心の中で「本家はもとより、これだけ多い分家

の家にも一軒一軒、挨拶に行くって言うのも霊って忙しく大変なんだな…」と。また更に、「て言うか帰って来る来ない以前にもう皆の頭の後ろに透き通ってはいるけど、先祖と思われる人達いるじゃん…」と、思いつつ、ここで更なるある疑問を私は持ちました。それは、家族・親類それぞれの大人達の頭部背後に見える先祖と思われる

霊の皆さん「何で同じ霊がそれぞれに付いてるの？」と。要するに祖父の頭部背後に見える霊は男性と女性がそれぞれ一人ずつ見え、祖母の頭部背後には女性が一人見え、しかし、祖父と祖母に見え付いている女性は全く同じ女性であり、この時私はまだその解釈が分からず、とても混乱しつつ、とても興味深く観察していた事を

よく覚えております。その疑問は時が経過し大好きだった父方の祖父が天寿を全うしたその時その瞬間に起きた、ある事象を目の当たりにした事によって納得できたと同時に、私はある仮説を樹立する事が出来ました。それは結論から言えば、『生命体のエネルギーは細胞分裂する』

と言う説に御座います。私は、それを、『御霊分与（みたまぶんよ）』と呼んでおります。

当時、祖父が命終わる瞬間、祖父の頭から、光の様な・煙の様なものが吹き出すのをこの目ではっきりと見ておりそれをここでは光煙と申し上げますが、その光煙は祖父の頭から出現し、次第に一つの光煙が幾つものにも分かれ、

それは言うなれば、一つの大きな雲が時間の経過と共に幾つもの小さな雲に等分されて行くかの様な姿に御座いました。ある光煙は祖父のベッドを囲んでいる家族達全員の同じく頭にスッと入って行き、ある光煙は窓の外へ出かけるかのごとく飛んで行き、私のところにその光煙が近づいて来た事までは覚えておりますが、他の家族達と

同様に私の頭の中に入ったか否かは分かりませんが、今思う事は入って来てくれたとそう信じております。さて、祖父の頭から出現したその光煙とは、一体何であったのか、それはその後現在に至るまで様々な方々の命の終わりの瞬間に立ち会わせて頂く度に、その祖父と同じ光煙と等分されて行く様等、見続けて

来ており、今、明確に申し上げられる事はそれが、その人間の魂と言うエネルギーであり、それが霊の正体であると私は強く感じております。あるご家庭でのそのシーンで申し上げれば、命が終わろうと致すその時、その方との別れよりもその後の財産相続の方を無情な心理で考えているご家族に光煙は入って行かなかったり、

また更に、他のご家庭でのそのシーンでは
ご家族へは勿論、それ以外に庭の木の根や
その方が可愛がっていたワンちゃんの頭に入っ
て行くシーンを目の当たりにしたり、
等々、ここで申し上げたく私の仮説理論は
全ての生命体のカラダの中には、生体電流
と言う電気の力が生じており、電気の力が
生じておると言う事は磁気の力『磁力』も

当然、生じます。磁力とは、簡素に言うと
引き合ったり反発したり、いわゆる
作用反作用の力に御座います。
人間だけではなく生命体における、
その命が終わるその時、電球が切れる時と
同じく、その生命体の中を流れる電気の力は
強くなり、同時に強い磁気が発生され
特にその力が強い人間を始めとする

知能や寿命が高く長い生命体から
発しられる磁力は、カラダから外へと
放出され、その磁力と共鳴する磁力を持つ
生命体とは作用となり、その磁力と反発する
磁力を持つ生命体とは反作用となる事を
感じており、分かりやすく申し上げますと
例えば私の祖父が命終わるその時、祖父から
発しられた磁力は祖父を大切に思う人の

磁力と引き合い、その人の中に入り同化し、
逆に祖父を粗末に思う人の磁力とは反発し
合い、その人の中に入る事は出来ません。
又、科学的 根拠を示す事は出来ませんが、
磁力は意思を持っていると感じてならず、
祖父を大切に思い、祖父の磁力と引き合い、
同化した人が、その後祖父の分まで頑張るぞ
と歩まれた人の運気はとても高く強く

逆に、祖父の死の悲しみからその人が
頑張れなくなった時、その人の運気は大変
可哀想なのですが…低く弱くなってしまう
現実を多く見て来ております。何故なのか？
それは、その人の中に同化した祖父が、
自分の分まで頑張ってくれてありがとうと
喜んでいるか、自分の死によって頑張れなく
させてしまい申し訳ないと悲しんでるか、

その違いがその人の運気の陰陽を左右する
と言う事も多くの方々をスキャンして参った
ある種、臨床から得た答えに御座います。
更に、祖父を粗末に思う人の粗末の思い
レベルが高ければ高い程、祖父の磁力が
強く不満を覚えた時、引き合わぬどころか、
新たな第三の力、陰の力が祖父の磁力から
発生され、その陰の力は祖父を粗末に思う

人の磁力と引き合い、その人の中に同化し、その人の運気は急降下する結果となる事も多くの臨床を経て見て来ております。話しが脱線する様に聞こえてしましますが、人生は様々な事々があり、その故人を粗末に思いたくなる事もあるでしょう。しかし、先人達の言葉に罪を憎んで人を憎まずという言葉があり、その意味を私は

スキャンと臨床から教えて頂いたとそう強く感じてなりません。本題に戻りますが、仮に祖父に身寄りがなく、孤独に命を終えた場合、祖父が発する磁力は生前に思い入れや思い出のある、例えば、木々や動物、車やパソコン等そのものがどんなに距離が離れた場所にあっても磁力を発し引き合う事が出来れば、

そのものの中に入り、同化できる瞬間を私は何度となく見て来ております。また、今申し上げた磁力のお話しはあくまでも生命が終わりを告げるその瞬間、特に強く発生すると言うお話しであって、磁力の発生・同化・反発など生死を分ける時だけでなく、その磁力の強弱はあるものの

老若男女 問わず、誰でも日常的に行なわれており、それは例えば、親子・友人恋人などを始めとする人間同士のコミュニケーション時であったり、例えば人間と動物、人間と物など先にも申し上げた通り、お互いに磁力を発生出来るもの同士ならば、磁力の同化・反発は必ず生じると言っても過言ではなく、

更に、これまた先に申し上げた通り霊の正体は、この磁力であるのと同じく神・天国・地獄などなど、未知の世界の正体もこの磁力が大きく関与しており、生命が終わりを迎えた時、そのカラダから発生された磁力が同化する人の中に入った時、同化した生きている人の運気が向上するだけでなく、その故人の磁力は、

その同化した人の心の中で優しさにつつまれ、それを天国と言うのだと私はそう感じており、それとは逆に反発され、陰の力が生まれてしまった場合、反発した生きてる人の運気が低迷するだけでなく、反発された故人の磁力は陰の力に苛まれ、それを地獄と言うのだと私は感じてなりません。

ですので、一つの生命体や物などが放った一つの磁力は、それを感受できる生命体や物の数と同じに、いくつにもいわば細胞分裂する事ができ、それを御霊分与と私はそう呼んでおり、そして感受した生命体や物がそれを同化するか、反発するかによって放たれ、御霊分与した磁力はそれぞれ天国となる磁力もあれば、

地獄となってしまう磁力もあり、再び祖父で例えれば、祖父が放った一つの磁力はそれを感受できる人や物が、仮に友人Aさん知人Bさん、ペットのワンちゃんと言う3つであった場合、3つに御霊分与され友人Aさんは祖父を大切に思ってくれる人がゆえ、Aさんが感受した祖父の磁力はAさんの心の天国にいられる事になると

同時に、Aさんの運気は向上し、知人Bさんは祖父に恨みがあり、祖父を粗末に思うBさんの反発力によって陰の力が生み出された時、祖父の磁力は陰に苛まれそれを地獄と言ひ、そしてBさん自身も運気は低迷し、ペットのワンちゃんは祖父の死を理解できぬが、祖父がいない事にさみしいと言う愛が生じたがゆえ、ペットの

ワンちゃんが感受した祖父の磁力は、ワンちゃんの心の天国にいられる事になると同時に、ワンちゃんの運気は、向上すると強く感じております。例えば、仮に祖父が大切にしていたPCがあるとした場合、そのPC自体も磁力を放つ事が出来るもののカテゴリに属し、磁力を放つと言う事は磁力を感受

できるものと言う事となり、しかしPCには感情と言うものは存在せず、その場合、祖父が大切にしていた祖父の思いがPCにインストールされ、その瞬間から言うなれば、祖父の意思を持った唯一無二のPCとなり、そして祖父が命を終えた理由に納得していた場合、そのPCを使う後継者は運気の向上に繋がり、

祖父が命を終えた理由に納得していなかった場合、そのPCを使う後継者は運気の低迷に繋がってしまったり、またそれはPCだけに限らず、それが例えば、宝石・盆栽・車など磁力は放ち感受できるカテゴリに属しつつもそのもの自体に感情が存在しないものは今、例えて申し上げたPCのお話しと同じ法則が成り立つことを感じております。

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

更に、生きているもの同士、それは親子・恋人・友達・お仕事やご近所の人間関係など、やはり磁力が多に影響する事を強く感じており、例えば、子供への教育が目で見える額面上の方法手段がどれだけ素晴らしいものであっても、その親の心がズルかったり怠けていたりなどしていると目に見えぬ

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

親子の磁力の送受信によって、子供が親と同じく、ズルや怠ける大人へと成長してしまったり、はたまた親への反発心が高まり、親子不仲へと至ってしまったり、それは親子関係以外の人間関係や人間と動物、人間と物にも同じ法則が成り立つ事を強く感じております。更に私で例えれば、私はよく

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

誰もいない場所にも関わらず、何か不穏なエネルギーを感受し、身構えてしまう事がありその数秒後・数分後、その場所で事件や事故トラブルを起こす方と遭遇したり、その場所が実は過去、残酷な事件が起きた場所であった事が発覚したりなど、その付近にいる人達や木々の磁力を感受し、スキャンが反応すると言う事も日常茶飯事に御座います。

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

さて、話は変わり、少々スケールの大きい話となりますが、皆様は神とは実際何だと思いますか？地球と言う奇跡の星こそ神と位置付ける方もおられますでしょう。自分を愛し助けてくれた大切な人やペットを神と位置付ける方もおられますでしょう。それは全て正解だと私は感じております。そして私は更に、

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

人間の様な知的生命体が、心の支えとして発想し、多くの人達のおろがむ磁力が、集積されたエネルギーが、神の正体であるとそう強く感じておる事も実際に御座います。もう一つ質問させて下さい。皆様は、前世・来世と言った輪廻転生はあると思われますか？ 私は“あるなし”ではなくあってはいけぬとそう強く信念を持って

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

おります。それは、このお仕事を通して多くの方々と接しさせて頂く中で、前世・来世を信じる若者達の一部には、悪気は全くないのですが、自身達が起こした様々なトラブルに対して「自分は前世で悪い事をしたらしく、そのせいで現在のトラブルが生じたので自分は何も悪くない」と責任転嫁の道具として使う者達や

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

「もう現世での自分に嫌気がさして来て
来世の自分に賭けたいので」と逃げの
道具として使い、自ら死を選び
家族や友達を悲しみの極みに落としてしまう
シーンを幾度となく目の当たりにして参った
経過を私は歩いて来ており、その命、
その人生は、自分だけのものではなく、
自分を大切に思ってくれる人の為に

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

その命・その人生を、如何に磨いて行くかが
最も大切かつ重要なんだと言う私の信念を
込めて、私は前世・来世と言った
輪廻転生論は、否定も肯定もしない
代わりに“あってはいけぬ論”を日々
アナウンスし続けておる次第に御座います。
またその中で、若者達にこんなお話しも
付属して致すのは「前世・来世の説は

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

何の為にあるんだと思う？ それは昔、
偉い御坊さんが、過去の後悔に苦しまず
未来に失望する事なく、現在を頑張れば
目の前の障壁は必ず超えられると言う
意味を込め、人々の心を律する為の
前世・来世、輪廻転生論と言った
“現在を頑張れ例えイメージばなし”
として説いて下さったもの」と

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

私はそうお話し致します。また、私が
命の大切さ・諦めぬ心の大切さを伝える時、
私のスキャンが完全開眼し旭太郎となれ、
サイエンススピリチュアルと言う生き方・
在り方が生まれる最大の切っ掛けとなった
私が十代の頃、危篤状態に陥ったお話しも
少しでも若者達の“前だけを向いて
歩いて行く”エネルギーやパワーとなって

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

もらえたらと、語らせて頂く事もあり、
そのお話しとは、先にも申し上げた様に
私は十代の頃、原因不明にて突然、白血球や
血小板の機能がほぼゼロとなってしまう
病に襲われ、カラダの中は膿で
侵されてしまい、体温は当時の
水銀計で41℃を常に超え、その状態は
約半年つづき、その間に私は三度

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

危篤状態に陥り、そして俗に言う三途の川を
まともに体験した事実が御座います。
私の場合お花畑ではなく、崖の先端に立ち
目の前に広がる荒波の黒い海と
厚く覆われた黒い雲、そして無数の稲妻が
空から海へ、海から空へと異常な光景を
目の当たりに致しており、と思えば突然
私の体がフワッと浮き、そのまま崖下へと

急降下して行き、そうしたら、目の前に広がる
光景は打って変わって雲一つない青空、
激流の川、そして岸には木造りの小屋が
ポツンと たっており、私は のんきにも
しばらく その風景を眺めていると
小屋から白装束の男性が出て参り、私に
木造りの箱を差し出し、そして その男性は
静かに その木箱のフタを開け、中身を私に

見せて参りました。木箱の中に入ってた
ものとは、その男性が着ている白装束の
衣装と同じものであり、私はその異様な
状態に恐怖感は勿論ですが、それと同時に
「ああ、俺はもう死ぬんだな…これが、
TVとかでやってた三途の川か…しかし、
この白装束のおっさん、何も言わずに
木箱やら衣装を渡してきやがって…昔、

祖父から、知らない人間から
何かを渡されても絶対に受け取るなど
言われてるから、これはもらったら
ダメなパターンだ」と思いつつ、
実は…更に私は心の中で「て言うか
何かおかしい…根拠はないけど、とにかく
これって…絶対におかしいぞ」と私は
この頃、自惚れに聞こえるやも知れませんが、

自分の感覚・感性に絶対的な自信があり、
それは この時まで歩んで来た経過の中で
様々な事々が自分が感じた通りに
当たっていたと言う結果に基づく、
皆様からは小生意気と言われる程、自信を
持っておりました。しかし今、明らかに断言
出来る事は、その感覚・感性こそが実は
スキャンなのだと強く強く感じております。

話しを元に戻しますが、ある意味、生と死の
境目の世界と言われている世界が実際に
この目の前に広がり、その地に立っていた
私に御座いましたが、それが真実とは感じず
むしろ“まやかし”だと不信感と不快感すら
感じてしまい、その時 私の頭の中に今まで
とは比べ物にならぬ程、今までに無い程、強く
はっきりとある言葉が頭にテロップの様に

降りて参りましたその言葉とは、
「目に見えてる現実だけが真実ではない」
「苦痛を和らげる為に脳が見させてる幻」
と流れて来たのです。今思えば普通なら
三途の川と言う生死の境目にある
摩訶不思議な“霊的世界”が、その時は
目に見えてる“現実世界”であった事実、
とても面白い話だと不謹慎ですが、

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

私はそう思ってしまいました。しかし、
だからこそ私は死のフチにいながらも
冷静となれ、結果、生還する事が
出来たのだとそう強く感じてなりません。
この時のお話しから若者達に受け取って
もらいたい事は、どんな場面においても
特に感情的になってしまった時ほど、
人間と言う生き物は自分の固定観念や

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

思い込み、いち早く結論づけしてしまう
あせりの心などが生じやすくなり、
結果、脱線してしまったり陰負の選択を
してしまったり、なので、そんな時ほど
一つの事を様々な視点から見ると言う
心の大切さを養ってもらえたら、おのずと
冷静な心は芽生えて参り、そして、
ことの真実と最善な選択が自動的に

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

分かり出来る様になると、私は
スキャンと同時に何万例もの結果に
基づいてそう強く感じ、そう強く
申し上げたく次第に御座います。
私は思います、占いとは先人達が
積み上げて来た統計学に基づき、
万物における吉凶の確立を示す
素晴らしい術法。

スピリチュアルと科学の融合『サイエンススピリチュアル』とは

そして宗教とは、先人達が積み上げて来た
万物における道徳的学びやそこから自身を
律する為の素晴らしい教場。
サイエンススピリチュアルとは、万物における
現在・未来を霊的世界の力を用いて
現実世界を好転させる技を生み出す
生き方・在り方であると、
私はそう強く感じております。